

第4学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年6月26日(木) 5校時
児 童 12名
授業者 上和野 裕 貴

1 単元名 「聞いて・見て・知らせたい！見せ方を工夫して新聞を作ろう」

2 学習材名 「新聞を作ろう」(光村図書4年上)

3 言語活動について

本単元で身に付けさせたい資質・能力は、相手や目的を意識して書きたいことを選び、伝えたいことを明確にする力、集めた情報を整理して活用する力、相手に分かりやすい文章になるよう推敲して文や文章を整える力である。

そこで本単元では、書く学習において、学習指導要領解説国語編に示されている言語活動例から、「ア調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(学習指導要領解説国語編p.106)」として、「4年生1学期76日の驚き、喜び、大発見を全校のみんなに伝よう」というテーマのもと、学校生活で見付けた驚きや喜び、発見を学級新聞で伝える言語活動を設定する。新聞作成は3人グループで行う。その際に、誰にどのようなことを伝えたいか相手意識と目的意識をもたせて学習に向かえるようにしていく。

4 単元について

(1) 児童について

- ・本単元は、4学年になって3度目の書くことの学習である。
- ・「なりきって書こう」では、身近な事物になりきって短作文を書き、学級の友達同士での交流を行った。学習を通して、修飾語を使うと身近な物事の様子を詳しく伝えることができることを学習し、日記などで修飾語を意識して書く力が身に付いてきた。
- ・「お礼の気持ちを伝えよう」では、児童一人一人がお礼の気持ちを伝えたい相手を考え、その相手に思いのこもった手紙を書くために、手紙の書き方の学習を生かし、手紙を書いて送る学習を行った。相手意識をもって文章の内容を吟味することや、推敲する力が身に付いてきている。
- ・児童の学習経験として、リーフレット、ポスター、作文などがある。新聞を書く経験はほとんどの児童が初めてである。
- ・書くことに前向きな児童が多いが、内容を考えて整理することに苦手意識をもつ児童もいるため、思いや考えを引き出し、言葉にしたものを整理するという支援が必要である。
- ・読み手に伝わりやすい文章にするために、書きたい事柄を整理しながら段落をつけて書くことを苦手としている児童が多い。
- ・本校では「+日報」「よむYOMUワークシート」などの新聞活用の取組を行っているため、児童にとって新聞は身近な情報手段である。
- ・他教科でも新聞を資料として活用する場面が多くあり、興味関心が高い。
- ・昨年度11月に実施したC R Tの「書くこと」の小領域の通過率は、下記の通りである。

大問番号	小問番号	小問内容	学級通過率	全国通過率
10	1	報告文を書く・目的に合った資料	50	51
	2	報告文を書く・目的に合った資料	50	47
	3	報告文を書く・比較表にまとめる	58	49
	4	1 考えを記述・指定の分量で書く	50	46
		2 考えの記述・必要な語を使い書く	33	22
		3 考えの記述・表から適切に引用	50	27

- ・「書くこと」の小領域の通過率は、6問中5問が全国通過率を上回る結果であった。
- ・「目的にあった資料」の小問がわずかに全国通過率よりも低い結果となっている。
- ・誤答の傾向を見てみると、問題文に書かれている目的を正しく理解することができずに、同一の誤答を選択している。
- ・「書くこと」の小領域での無回答率が40%～42%と高い傾向にある。

以上のことから、本単元では、相手意識や目的意識をもって書くことは他者とよりよく関わり合うことにつながるということを体得できるよう、単元のゴールを子どもたちと共有しながら学習を進めていく。また、児童一人一人の思いが記事に反映されるよう、記事の内容を広く設定し、その中から選ぶことができるようにする。

(2) 指導にあたって

- ・本単元では、3人グループで協働しながら新聞を作ることで、記事の分量や内容、補足資料、見出しなどをより広い視野で熟考できるようにしていく。
- ・単元全体を通して、誰に伝えたいかを児童が考えられるように、単元の導入段階でグループ毎に話し合う機会を設定し、役割分担や計画を児童主体で行う。
- ・記事の内容は「4年生1学期76日の驚き、大発見、喜びを全校のみんなに伝える」というテーマを設定し、目的をもって取り組むことができるようにする。1学期に学習した内容や行事、体験や経験の中で伝えたいことを全体で振り返った後、グループで誰がどの記事を書くかを話し合い吟味していく。
- ・話し合う過程で、相手意識や目的意識にその都度、立ち返ることができるようにしていきたい。
- ・取材をする際には、既習単元「メモのとりかたを工夫しよう」での学習を生かすことができるようにしたい。また、記事に掲載する資料の選定では、「アップとルーズで伝える」での写真資料の吟味を生かしながら活動できるようにしたい。
- ・取材の際に、ロイロノートを活用し、録音や写真撮影などを記録できるようにする。
- ・第3時及び、第7時以降の下書きは、「+日報」のクミハンを活用する。
- ・インターネットを手段に情報を得ることが多くなっている現代社会において、自分の知りたい情報以外の情報に広く触れられる新聞の良さを実感できる機会にしていきたい。

5 単元目標

○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。
(2) イ〔知識、技能〕

○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確することができる。 B(1) ア〔思考力、判断力、表現力等〕

○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。
B(1) エ〔思考力、判断力、表現力等〕

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。 (2) イ	・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 B(1) ア ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。 B(1) エ	・積極的に、相手や目的を意識しながら書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって新聞を書くとしている。

7 学習指導計画（全11時間）

段階	時	学習活動	評価規準と評価方法
第一次	1 (本時)	① 自分の生活経験や学習経験を振り返り、他者に情報を伝える手段として、新聞があることを知る。 ＜ICT活用 ロイロノート 協働＞ ② 新聞の特徴を捉え、新聞作りへの見通し	□相手や目的意識のある書き表し方について考え、学習の見通しをもつことができるかを確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・記述)

		をもつ。 ③ 学習のゴールを設定する。	
	2	④ 記事にしたい情報について、読んでもらいたい相手と内容について話し合い、本単元の学習計画を立てる。 ＜ICT活用 ロイロノート 協働＞	
第二次	3	⑤ 新聞名や記事の割り付けを話し合い、決める。 ＜ICT活用 +日報 クミハン＞	□書きたい事柄に合っている資料について共通点や相違点に着目しながら比べたり、読み手が理解しやすいように資料を分類したりしているか確認する。 【思考・判断・表現】B(1)ア (発言・記述)
	4・5	⑥ 取材の準備や情報収集をする。 ＜ICT活用 ロイロノート 個別＞	
	6	⑦ 取材や情報収集したものを、読み手にわかりやすく伝えられる情報かどうか、比べたり分類したりして整理する。 ＜ICT活用 ロイロノート 協働＞	
	7	⑧ 記事の下書きを書く。 ＜ICT活用 +日報 クミハン＞	□必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができているかを確認する。 【知識・技能】(2)イ (発言・記述・観察) □誤字や脱字を正したり、読み手にとって読みやすい表現や文章になっているかを確認しながら、よりよい文章に整えたりしているかを確認する。 【思考・判断・表現】B(1)エ (発言・記述)
	8	⑨ 記事の下書きを推敲し合う。 ＜ICT活用 +日報 クミハン＞	
	9	⑩ 読み手を惹きつける見出しを考える。 ⑪ 考えた見出しをグループで吟味する。 ＜ICT活用 +日報 クミハン＞	
	10	⑫ 記事を清書して新聞に仕上げる。 ＜ICT活用 +日報 クミハン＞	
第三次	11	⑬ 他のグループの新聞を互いに読み合い、感想を伝え合う。 ⑭ 全校の児童や先生方からの感想を共有し合う。 ⑮ 単元の学習を振り返る。	□相手や目的を意識しながら書き表し方を工夫して新聞を書こうとしたり、友達の記事や新聞への意見や感想を伝えようとしてしているか確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・記述)

8 本時の指導(1/11)

(1) 目標

- ・新聞の特徴や工夫を見付け、より良い見せ方をしている新聞はどれかを考えるとともに、単元のゴールを確かめ、学習への見通しをもつことができる。

(2) 評価の観点と評価規準

評価の観点	評価規準	評価資料等
主体的に学習に取り組む態度	・相手や目的意識のある書き表し方について考え、学習の見通しをもつことができているかを確認する。	発言・記述

おおむね達成	未達成の児童への支援・手立て
・複数の新聞から違いを見付けたり、新聞の特徴を捉えたりして、なぜそのような書き方をしているかについて自分なりの考えを伝えようとしている。	・複数の新聞から違いを見付けられるように、図やイラスト、グラフや表などの資料、見出しの有無、新聞名などに着目できるようにする。

(3) 本時の指導にあたって（研究内容とかかわって）

1 身に付けさせたい資質・能力に基づき、人・もの・こととつながる言語活動の設定 (1) 目的意識・相手意識のある学習ゴール設定 (2) 学習ゴールに向けた学習活動の工夫	2 自分の考えを広げたり深めたりする対話場面の充実 (1) 考えを形成するための価値ある発問の吟味・精選 (2) 互いの考えをつなぐ学習場面の設定 (3) 互いの考えをつなぐ対話スキルの獲得	3 学びの文脈を生み出す振り返りの充実 (1) 視点をもたせた振り返り内容と場面の吟味 (2) 振り返りシートの蓄積と活用 (3) 指導者のフィードバック
---	---	---

本単元では、「1 身に付けさせたい資質・能力に基づき、人・もの・こととつながる言語活動の充実」についての手立てを重視する。

○目的意識・相手意識のあるゴール設定

「4年生1学期76日の驚き、大発見、喜びを全校のみんなに伝える」ことを共通テーマとし、新聞作成を行う。記事にする内容については、児童の思いが優先されるよう、一学期にあった出来事や学習活動の中からグループ内で検討し、決定する。また、読み手についてもグループ内で読んでもらいたい相手を具体的に想定し作成することで、より相手意識をもつことができるようにする。

○学習のゴールに向けた学習活動の工夫

本時では、複数のモデルから「みんなが読みたくなる新聞はどんな新聞か」について比較や分類をしながら考えを深め、書きたい新聞へのイメージをもてるようにする。提示する新聞は、子どもが書いた新聞、子ども向けに書かれた新聞、地方紙、専門紙の他、エラーモデルを交えていくことで、比較しやすくしていく。

それぞれの新聞を比較、分類したうえで、読み手にとって読みやすい新聞には、見出し、資料（写真・イラスト・グラフ・表）、文字大きさや色などの工夫がされていることに気付くことができるようにしていく。

(4) 展開

段階	主な学習活動	○指導上の留意点 □評価
導入 5分	1 これまで、誰かに何かを書いて伝えた経験を出し合う。 ・リーフレットを書いた。 ・ポスターを書いた。 ・作文を書いた。 ・動画でニュースを作った。 2 新聞という情報を伝える手段があることを知る。 3 新聞に親しんだ経験を想起する。 ・岩手日報が毎朝届く。 ・週末に「読むYOMUワークシート」で読んでいる。 ・家にも新聞が毎日届くよ。	○これまでの児童の経験を想起できるようにする。 ○日常的に新聞と関わった経験を想起できるようにする。
展開 30	4 様々な新聞をグループで比較し分類する。 ・文字ばかりで読みにくいね。 ・写真やグラフがあると分かりやすいね。	○これから新聞を書くにあたって、どのような新聞を書けば良いか考えられるようにする。 ○グループ毎にロイロノート上で、新聞記事を「読みやすい」「読みにくい」の2つに分類する。

分	・見出しがないと、何のことが書かれているか、分かりづらいね。 ・いつ書かれたかがわかるよ。 5 全体で「読みやすい」新聞にはどのような特徴があるのかを確認する。	○「読みやすい」理由と「読みにくい」理由をそれぞれのグループで話し合い、意見をまとめる。 ○「読みやすい」新聞には、どのような工夫があり、それらがあることによる効果について考えられるようにする。 ○それぞれのグループで出てきた意見を出し合い、全体で確認する。 □相手や目的意識のある書き表し方について考え、学習の見通しをもつことができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・記述) ○4年生1学期を振り返って、誰かに何かを伝えたいことはないかを問う。 ○「4年生1学期76日の驚き、大発見、喜びを全校のみんなに伝えよう」というテーマを伝える。
終末 10 分	6 学習のゴールを確認する。 「聞いて・見て・知らせたい！見せ方を工夫して新聞を作ろう」 7 学習の振り返りをする。 ・読んだ人が読んでみたいと思えるように、写真やイラストを入れた新聞を書きたいです。 ・見出しを付けたり、文字の大きさを工夫して、読んだ人が何について書いてあるか分かる新聞を書きたいです。 ・4年生の1学期で伝えたいことをみんながよく考えて、全校のみんなが知らなかったことを知ることができる新聞を書きたいです。 8 次時の予告をする。	○振り返りの視点 ・どのような見せ方の工夫を使って新聞を書きたいか。 ○次時では、グループで具体的に誰にどのような内容の新聞を作るか計画をしていくことを伝える。

(5) 板書計画

